

令和5年度  
『保育者として働く卒業生対象のアンケート調査』  
報告書

駒沢女子短期大学  
自己点検・評価委員会

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

本調査は、駒沢女子短期大学・保育科の卒業生が獲得した学修成果（「保育者」及び「社会人」として求められる資質・能力）について、その後の経過を把握し、本学の教育活動（学修活動）の効果を検証することを目的に実施した。

(2) 調査時期：2023年1月～3月

(3) 調査対象：本学卒業後、保育者として働く経験年数5年目までの卒業生304名

※有効回答数：60名（約20%）

(4) 調査方法：オンラインによる質問紙調査（Google Form）

アンケートフォームのQRコードが記載された案内文書を送付し回答を求めた。

## 2. 調査内容

### (1) 卒業生の基本情報

①氏名

②経験年数：1年目～5年目（平成30年度～令和4年度に本学を卒業した卒業生）

③取得資格：幼稚園教諭二種免許状・保育士資格・取得なし

④勤務先：幼稚園・保育所・認定こども園・施設

⑤雇用形態：正規・契約・派遣・パート・転職予定・退職予定

### (2) 「保育者」として求められる資質・能力

本学での学修活動（教育活動）を通じて獲得した「保育者」として求められる資質・能力について、古屋・川口・村野（2017）が作成した全21項目からなる自己評価式の尺度を使用した。卒業生には、各項目について「今のあなたは、どの程度、発揮（実践）できると思いますか」と尋ね、「1. そう思わない」「2. そう思う」「3. とてもそう思う」「4. 非常にそう思う」の4件法で回答を求めた。

（項目例）「教育・保育・支援の基礎知識を理解している」

「子ども（利用者）の姿を客観的に捉えることができる」

「自分で指導（支援）計画を立てることができる」

### (3) 「社会人」として求められる資質・能力

本学での学修活動（教育活動）を通じて獲得した「社会人」として求められる資質・能力について、古屋・川口・村野（2017）が作成した全15項目からなる自己評価式の尺度を使用した。卒業生には、各項目について「今のあなたは、どの程度、発揮（実践）できると思いますか」と尋ね、「1. そう思わない」「2. そう思う」「3. とてもそう思う」「4. 非常にそう思う」の4件法で回答を求めた。

（項目例）「適切な文章表現力がある」

「正しい生活習慣が身についている」

「自分から進んで協力することができる」

### (4) 本学の教育活動に関する意見（自由記述）

①本学の教育活動において最も印象に残っていること

②本学在学中に学修したかったこと

③卒業生を対象とした研修会『フォローアップ・セミナー』において取り扱ってほしい内容

### 3. 調査結果

#### (1) 保育経験（卒業年度）

令和5年度の調査に回答した60名の卒業生の経験年数は図1に示す通りである。5年目が15名（25%）と最も多く、4年目（14名：23%）、1年目（13名：22%）と続いた。

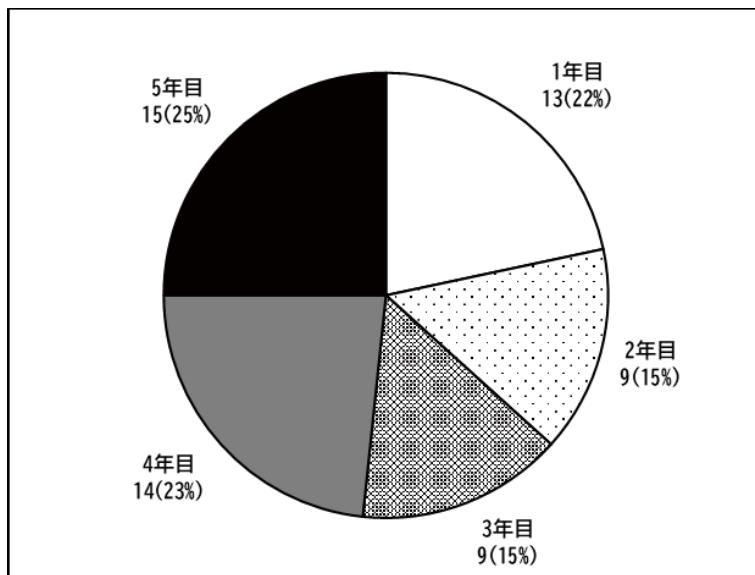


図1. 経験年数ごとの卒業生の内訳

#### (2) 資格取得状況（幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格）

令和5年度の調査に回答した60名の卒業生の資格取得状況は図2に示す通りである。

全体の95%（57名）が、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を両方保持していることが分かった。

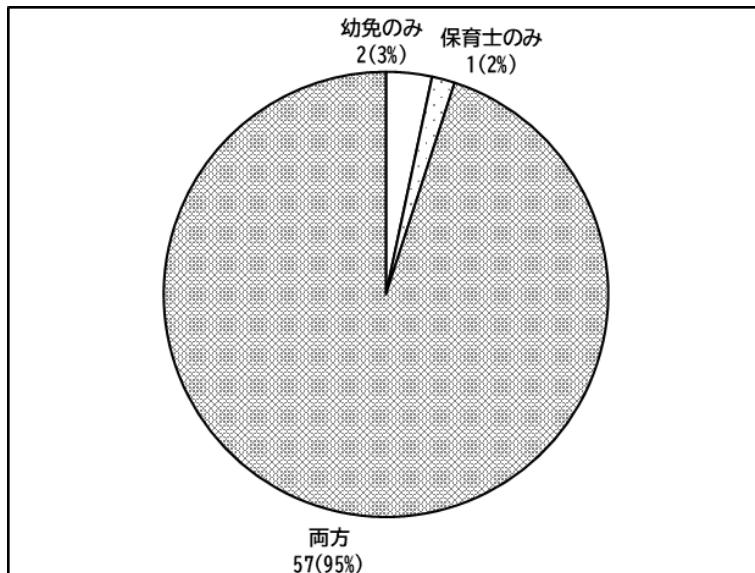


図2. 卒業生の資格取得状況

#### (3) 現在の勤務先と雇用形態

##### ①勤務先

令和5年度の調査に回答した60名の卒業生の勤務先は図3（次ページ）に示す通りである。

現在の社会情勢からもうかがえる通り、保育所で勤務する卒業生が全体の42%（25名）と最も多く、幼稚園が28%（17名）、認定こども園が23%（14名）と続いた。施設に勤務する卒業生は全体の7%（4名）であった。

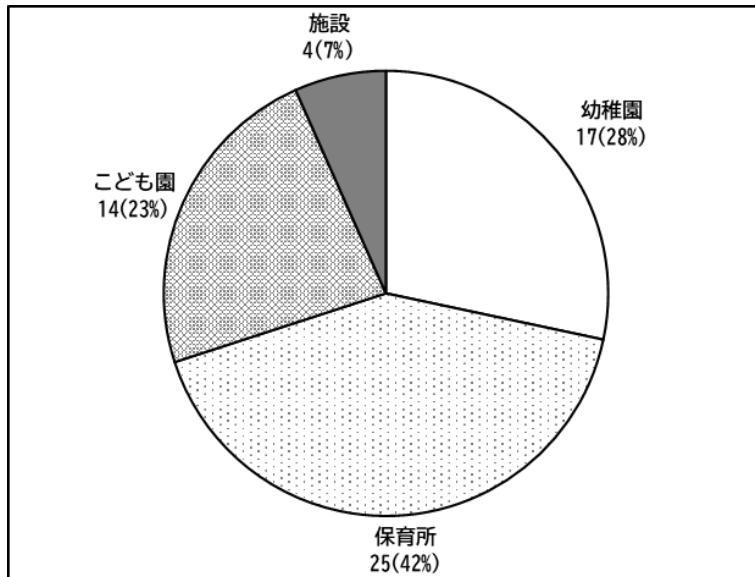


図3. 卒業生の勤務先内訳

## ②雇用形態

令和5年度の調査に回答した60名の卒業生の雇用形態は図4に示す通りである。

正規（フルタイム）職員として勤務する卒業生が最多く、全体の95%（57名）を占めた。なお、本年度は、パートタイムで勤務する卒業生はいなかった。

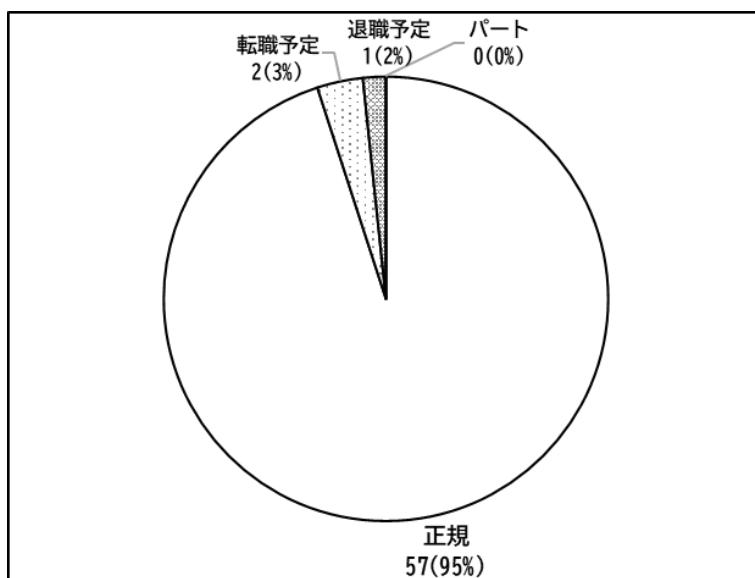


図4. 卒業生の雇用形態

#### (4) 保育者として求められる資質・能力

保育者として求められる資質・能力（本学の学修成果「遊び力」と「表現力」に相当）について、現在、どの程度実践することができているか、卒業生自身に評価してもらった。

その結果、子ども（利用者）の「④幸せを最善に考えること」や「⑤思いの共鳴」、「⑥個性の受容」 「⑦信頼関係の構築」 「⑨人権の尊重」 「⑯遊び（活動）を共に楽しむこと」は実践できていると高く自己評価する卒業生が多かった。この結果から、卒業生は、子ども（利用者）の幸せや人権に留意しながら、子ども（利用者）との関係性を基盤に、一緒に遊び（活動）を楽しんでいることがうかがえた（図5）。

他方、「⑯様々な遊び（活動）を知っている」や、「⑯音楽」や「⑯造形」を通した自由表現については、特に自己評価が低かった。また、「①教育・保育・支援の意義や目的」や、「②教育・保育・支援の基礎知識」「③教育・保育・支援の基礎技能」についても、自己評価が低い傾向がみられた。これは、教育・保育・支援の基礎知識や基礎技能に加え、本学の学修成果である「遊び力」や「表現力」が十分に發揮されていないことをうかがわせる結果でもある。**教育・保育・支援の基礎的理解を含め、子どもの遊び（利用者の活動）の充実に必要となる保育者自身の引き出しや、音楽・造形による自由表現の機会を増やすことは、今後のカリキュラム編成時にも検討していきたい。**

#### (5) 社会人として求められる資質・能力

保育者として求められる資質・能力と同様に、社会人として求められる資質・能力（本学の学修成果「思考力」と「人間力」に相当）について、現在、どの程度実践することができているか、卒業生自身に評価してもらった。

その結果、「③正しい生活習慣」や「④自分の心身の健康管理」、「⑥自然への興味・関心」 「⑦自然や美しいものに感動する心」 「⑯人の気持ち考えること」 「⑯他者を思いやる気持ち」 「⑯進んで協力すること」については、卒業生の自己評価が比較的高かった（図6）。

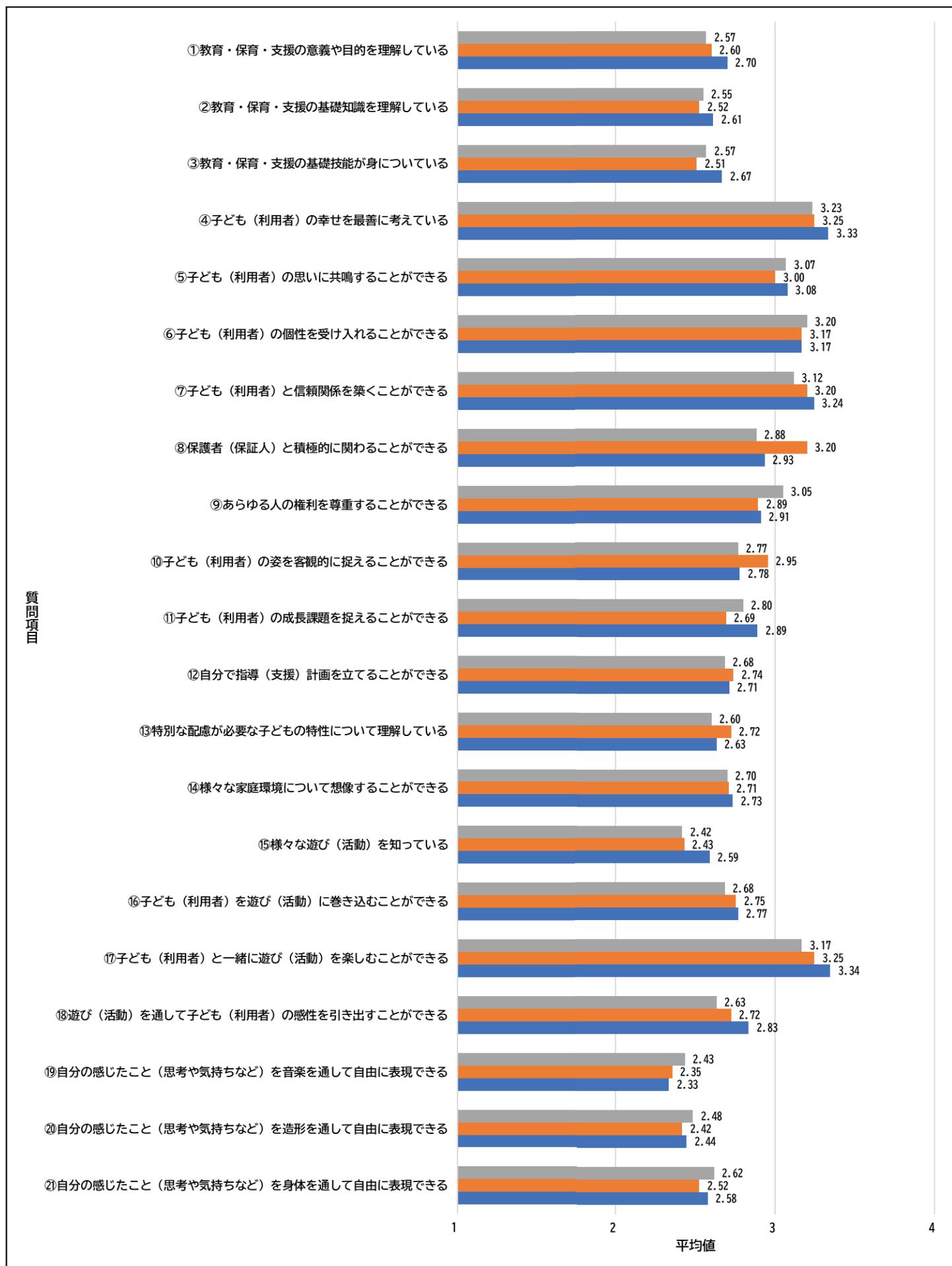
しかし、「①適切な文章表現力」や「②語彙力」、「⑤社会の出来事への関心」 「⑧積極性」 「⑨前向きさ」 「⑪物事の問題や課題への気付き」については自己評価が低かった。**これらの項目は、主に、本学の学修成果「思考力」に相当するものである。そのため、基礎学力の定着をはじめ、授業等において、時事問題を題材とした課題解決型の活動を導入するなど、教育活動の改善を図っていきたい。**

※1：（4）（5）の分析にあたっては、基準を「2：そう思う」もしくは「3：とてもそう思う」に設定し、その高低により解釈を行った。

※2：これらの資質・能力については、経験年数（回答年）や勤務先の園種別などによる違いも想定される。

本学のカリキュラム・マネジメント（学修成果の評価）の充実に向け、今後、より精緻な調査・分析を行う。

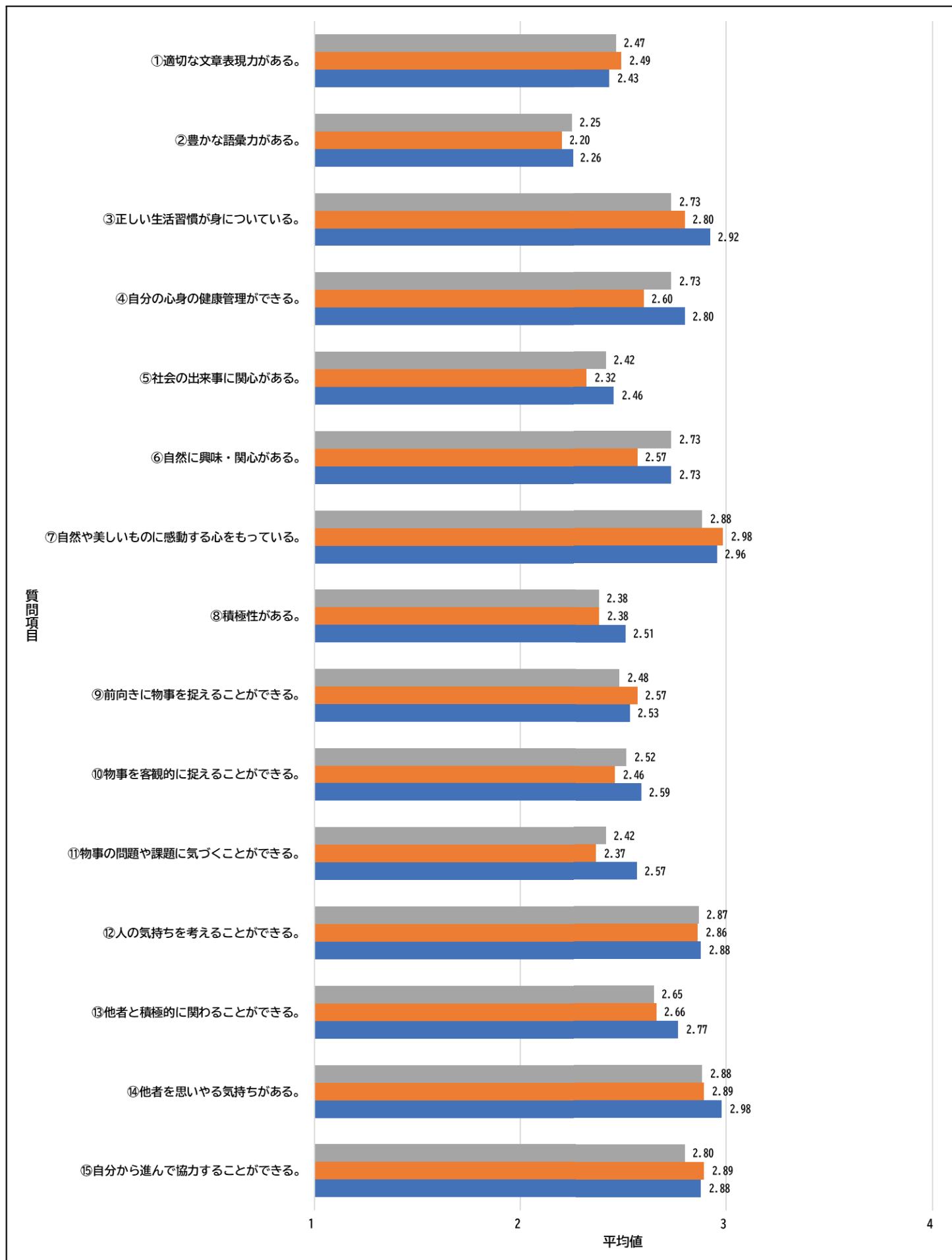
次ページ以降に図5・図6が続く



※1：グラフ上段（灰色：令和5年度）・中段（オレンジ色：令和4年度）・下段（青色：令和3年度）

※2：表中数字「1：そう思わない」「2：そう思う」「3：とてもそう思う」「4：非常にそう思う」

図5. 「保育者」として求められる資質・能力の平均値



※1：グラフ上段（灰色：令和5年度）・中段（オレンジ色：令和4年度）・下段（青色：令和3年度）

※2：表中数字「1：そう思わない」「2：そう思う」「3：とてもそう思う」「4：非常にそう思う」

図6. 「社会人」として求められる資質・能力の平均値

#### (6) 本学の教育活動の中で印象に残っていること

本学の教育活動において最も印象に残っていることを尋ねた結果、全51件の回答が得られた。その内訳は図7の通りである。最も多かった回答は、身体表現発表会（19件：37%）であった。次いで、運動会や健康の授業、リトミックなどの身体活動（9件：18%）や、造形の授業やダンボール制作展などの造形活動（8件：16%）と続いた。この他、さつまいも栽培や焼き芋大会、自然の顔探しなどの自然活動（6件：12%）や、ピアノや手遊びといった音楽活動（5件：10%）も多かった（表1）。

いずれの活動も、本学を代表する活動であり、学修成果「表現力」「遊び力」の獲得を促すことを意図して設けた学校行事や授業科目である。これらの教育活動が卒業生の印象として残っていることを踏まえ、引き続き、各活動の充実を図っていきたい。

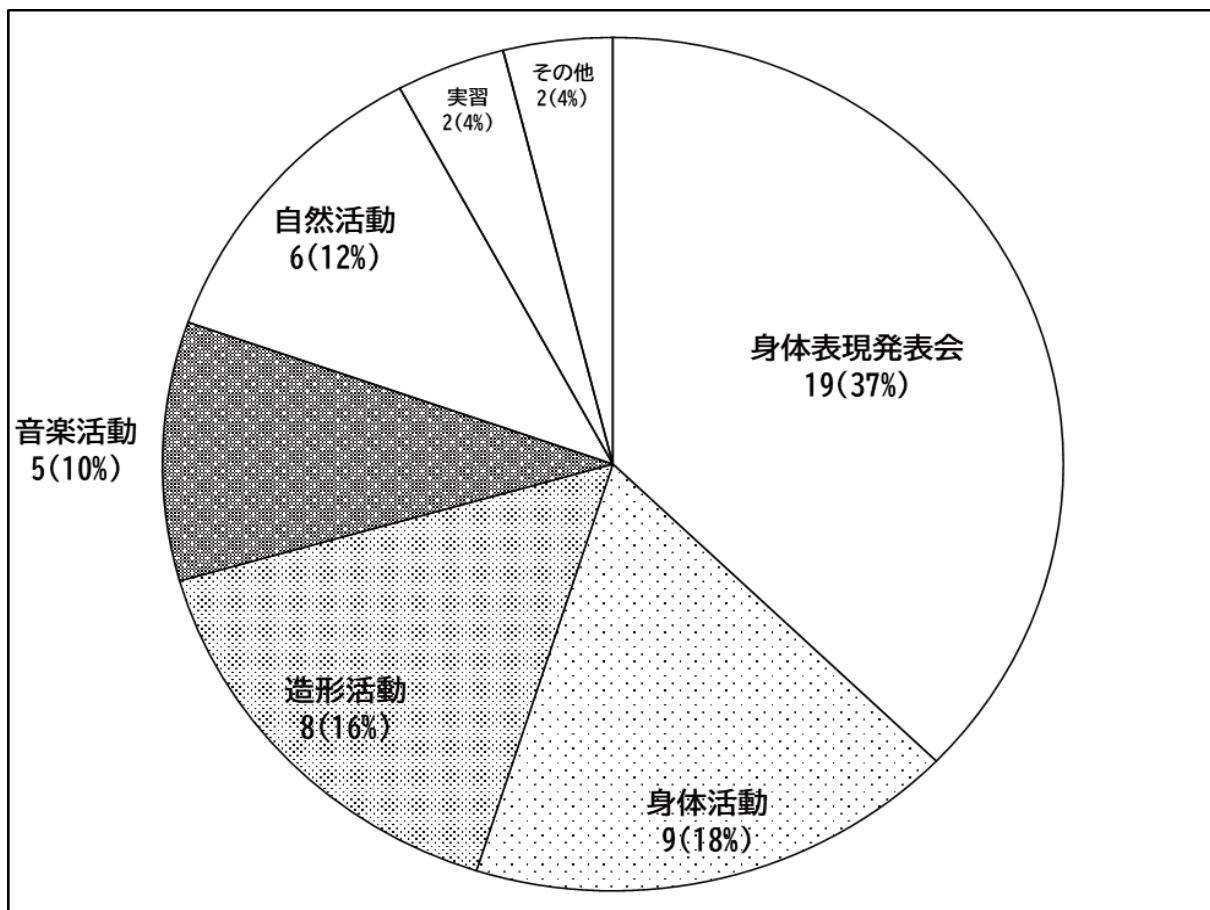


図7. 本学の教育活動の中で印象に残っていること

表1. 本学の教育活動の中で印象に残っていることの回答例

分類	回答数	%	回答例
身体表現発表会	19	37.3	身体表現発表会, 表現発表会
身体活動	9	17.6	運動会, 体育, 着衣泳, 縄跳び, 逆上がり
造形活動	8	15.7	造形表現, ダンボール制作展
音楽活動	5	9.8	音楽基礎（ピアノ）, 手遊び
自然活動	6	11.8	さつまいも栽培, 焼き芋大会, 自然の顔探し
実習	2	3.9	実習指導, 施設実習
その他	2	3.9	心理学, 英語
合計	51	100.0	

#### (7) 本学在学中にもっと学修したかったこと

卒業生が在学中にもっと学修したかったこと（全54件の回答）を集約した結果は、図8の通りである。

最も多かったものは、特別支援（12件：22%）であり、次いで、造形活動（6件：11%）や保護者対応（5件：9%）が挙げられた。この他にも、音楽活動（4件：7%）や身体活動（4件：7%）、遊び（4件：7%）や保育方法（4件：7%）、記録・計画（4件：7%）が挙げられた。また、病気対応（2件：4%）や福祉分野（2件：4%）についても挙げられた。

特別支援や保護者対応、病気対応は、現在、保育現場においてもニーズが高い事項である。他方、遊びや保育方法に加え、表現活動についても卒業生のニーズが高い。これは、（4）保育者に求められる資質・能力において「⑯様々な遊び（活動）を知っている」の自己評価の低さと合致する結果でもあり、在学中の学修活動としても、ますますの充実が求められていることがうかがえた。

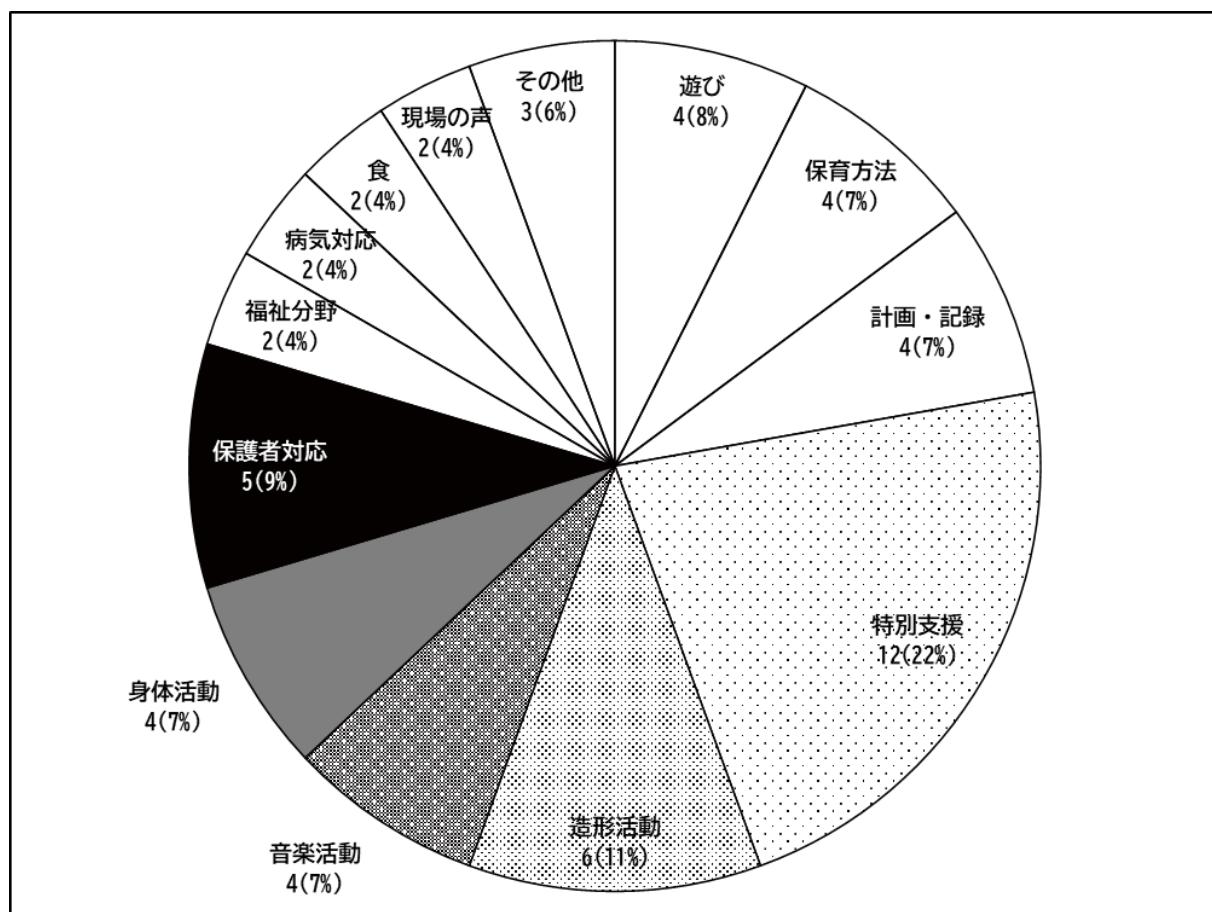


図8. 本学在学中にもっと学修したかったこと

表2. 本学在学中にもっと学修したかったことの回答例

分類	回答数	%	回答例
遊び	4	7.4	子どもの遊び（室内遊び、集団遊び）の種類、遊びの発展方法
保育方法	4	7.4	子どもの注目の集め方、言葉かけ、導入方法、全体指導
計画・記録	4	7.4	月案、個人記録、要録
特別支援	12	22.2	特別な支援を要する子どもへの支援方法（言葉かけ）
造形活動	6	11.1	製作遊び（自然物、折り紙）の種類、進め方、ハサミの使い方の指導方法
音楽活動	4	7.4	ピアノ演奏、手遊び
身体活動	4	7.4	身体表現、劇遊び、おゆうぎ会の進め方、リトミック
保護者対応	5	9.3	保護者対応、保護者への言葉遣い、保護者支援
福祉分野	2	3.7	児童養護施設の実態、社会福祉
病気対応	2	3.7	病児保育、嘔吐処理
食	2	3.7	食、離乳食
現場の声	2	3.7	学生時代に保育現場（先輩）の話を聞く機会
その他	3	5.6	文章力、パソコン、心理学
合計	54	100.0	

## (8) 卒業生対象のフォローアップ・セミナーの要望

### ●保育方法

- ・子ども主体性の保育について
- ・食について
- ・制作の種類
- ・リトミック遊び
- ・身体表現

### ●特別な支援を要する子どもの理解と支援

- ・特別な支援が必要な子どもについて
- ・特別な支援が必要な子どもへの言葉かけや援助方法について

### ●施設養育について

### ●働き方について

## (9) 本学の教育活動に関する意見・要望

●私は駒女を卒業できたことを誇りに思っています。この学校を選んで良かったと今でも思っています。学校や先生方には感謝の気持ちしかありません。本当に手厚くご指導いただきありがとうございました。

●インスタグラムをみて、コロナ禍よりも楽しい活動が増えていると羨ましく思います。

●今の学年で焼き芋パーティーをしたので、焼き芋作りの授業の経験が役立ちました。今、お正月遊びでコマ回しをしているのですが、授業の時も回せなかったので子ども達と頑張っています。

●子どもの偏食が増えており、連絡帳に記載されている夜ごはんや朝ごはんの食も影響しているのではないかと感じます。食事は子どもの元気の源でもあると思うので私たち保育者が学びそれを保護者に伝えていたら良いのではないかと日々保育をしながら感じています。

●学生の意見を聞くべき

以上

駒沢女子短期大学  
自己点検・評価委員会